



ポインセチア

なかごころ (那珂心)



福岡市立那珂小学校
校長 池田 彰治

NAKAリンピックにおける感染症対策について

11月24日(火)より、各学年を2分割したミニ運動会「NAKAリンピック2020」を実施しています。これまでに半分の学年が終わりましたが、那珂っ子が子どもらしい表情や元気な動きで楽しんでいる様子を見ることができ、喜ばしく思っています。やはり、子どもたちには、そのエネルギーを表に出して発散したり、友達と協力して笑顔になったりする場が必要であることを改めて感じています。全ての学年が終了しましたら、またこの学校だよりで様子をお伝えします。



【皆様の観覧についてのご協力に感謝します】

さて、先月より全国的に感染者が再び増加しており、市内でも休校や学級閉鎖措置を行う学校が見られます。前号でも書きましたが、いつ誰が感染してもおかしくないという危機感をもって、学校でも、家庭でも、街中でも個々が適切な行動様式をとっていくことが重要です。満足感や達成感を味わわせることを目的とした、この「NAKAリンピック」においても、子どもたちの命と健康を最優先にするために、以下のような感染症対策を行っています。

- 開始前、終了後の昇降口への移動の際、時間差をつけて分散させる。
- 整列・移動の際、待機して応援する際は、児童互いの距離を「透明人間2人分」空けさせる。
- 競技中も可能な限り互いに離れさせるように、場の設定や競技人数を工夫する。また、その場で各担任が指導を行う。
- 競技中や応援の際、大声を出させないようにする。応援は、手拍子、拍手を基本とする。
- 終了後、丁寧な手洗いおよび消毒をさせ、担任は見届ける。

那珂小学校児童人権標語

「その言葉 自分に向かって
言ってごらん」

那珂校区人権尊重推進協議会

人権尊重週間に寄せて

～ 感染症に関わる差別・偏見も新たな人権の課題 ～

12月4日～10日は『福岡市人権尊重週間』です。子どもたちには、1日(火)の月初め全校テレビ放送で、「私たち一人一人が人間として大切にされているか、また自分の周りの人を大切にしているかを振り返り、互いに気持ちよく生活できる行動をしていきましょう。」と話しました。身近なこととして、思いやりをもった言葉遣いができる那珂っ子を目指し、日々指導を行っていますが、左のように、自分が言った言葉を自分が受けたらどう感じるか、いつも反対の立場に立つことが大切であること伝えていきます。

部落差別をはじめ、障がい者差別等、人権に関する様々な課題がありますが、現在、感染症に関する差別・偏見・誹謗中傷が大きな問題になっています。

このことについて全校テレビ放送では、「このウイルスには誰もが感染する可能性があります。感染した人が悪いというわけではありません。皆さんの中で『感染することは悪いことだ』という雰囲気が出てしまうと、感染したと疑われることを恐れて、具合が悪くなくても言い出しにくくなったり、病院に行くことが遅くなったりしてしまいます。そうすると、さらに感染が広がってしまうかもしれません。

全国各地で、感染した人たちが心ない言葉をかけられるということが起きています。感染した人や症状のある人を責めたり差別したりするのではなく、思いやりをもち、早く治るよう励ますなど温かい言葉をかけてください。」と話しました。

この問題も含め、人権尊重の大切さについて、折に触れ、ご家庭でも話し合っていたいただければと思います。

ちくちくことば

おい! OO
うざいって!
きえる!



ふわふわことば

がんばってね!

ありがとう!

